

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

熊倉勇美

倉内紀子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

深浦順一

矢守麻奈

この冬は1月から2月にかけて降雪地帯以外の地域にも大雪が降り、大きな被害をもたらしました。近年の異常気象は夏季の酷暑だけでなく、冬季の大雪にもみることができ、地球環境問題について考えざるを得ない日々が続きました。

さて今号では総説として、椎名英貴氏に脳卒中による運動障害性構音障害の特性および評価・治療的介入法について解説していただきました。本稿は第14回日本語聴覚学会のアドバンスセミナーにおける講演をまとめたものです。長年、構音障害臨床に取り組んでこられた筆者の評価・訓練における“優れた技”がその根拠となる理論とともにわかりやすく、具体的に解説されています。

原著論文は、失語症の語彙理解エラーの経時的変化(津田哲也氏)、構文理解の発達と音韻性短期記憶の関係(深水峰子氏)、アルツハイマー型認知症の認知コミュニケーション訓練(後藤麻耶氏)、前頭葉病変による発動性障害の認知リハビリテーション(柴崎光世氏)の4篇です。前2編は失語症の語彙障害の特性または構文発達のメカニズムを追求しており、これらの知見が臨床に活かされるようになることが期待されます。後2編は認知症および前頭葉病変に対し、独自に考案した訓練法の効果が検討されており、このような研究の積み重ねが“evidence based practice”(根拠に基づく言語聴覚療法)を確実なものにしたいと思います。

レポート「現場、最前線」では、第14回日本語聴覚学会のシンポジウムで取り上げられた「言語聴覚士の開業」について小藺真知子氏にまとめていただきました。医療福祉制度の変革が進む中で言語聴覚療法は多様な形態で提供されるようになり、開業もその1つです。開業においてポイントとなる点が広い視野から明解に整理されていますので、是非ご一読ください。

4月には言語聴覚士国家試験に合格した方々が全国の病院・施設に入職し、言語聴覚士としての第1歩を踏み出します。本誌はこのような方々の生涯学習の拠り所となるよう内容の充実に努めてまいりたいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第11巻 第1号)2014年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2014, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)